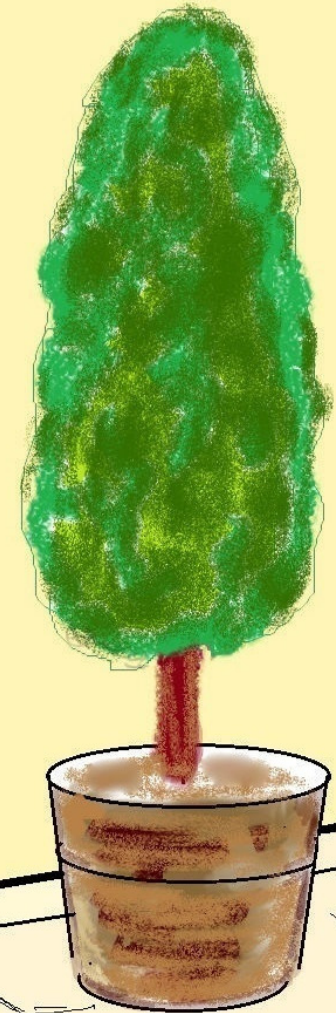
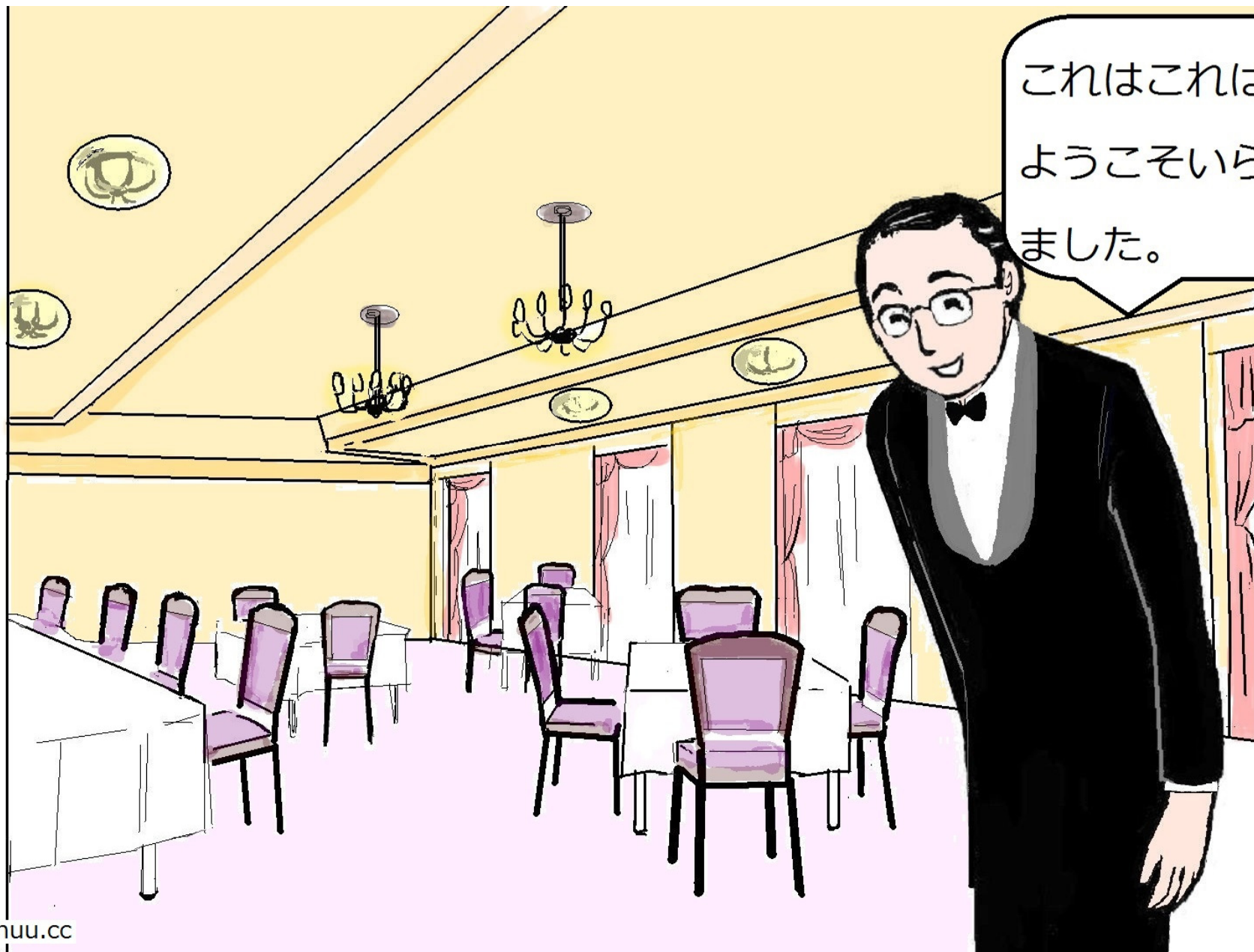


マダム・イン*

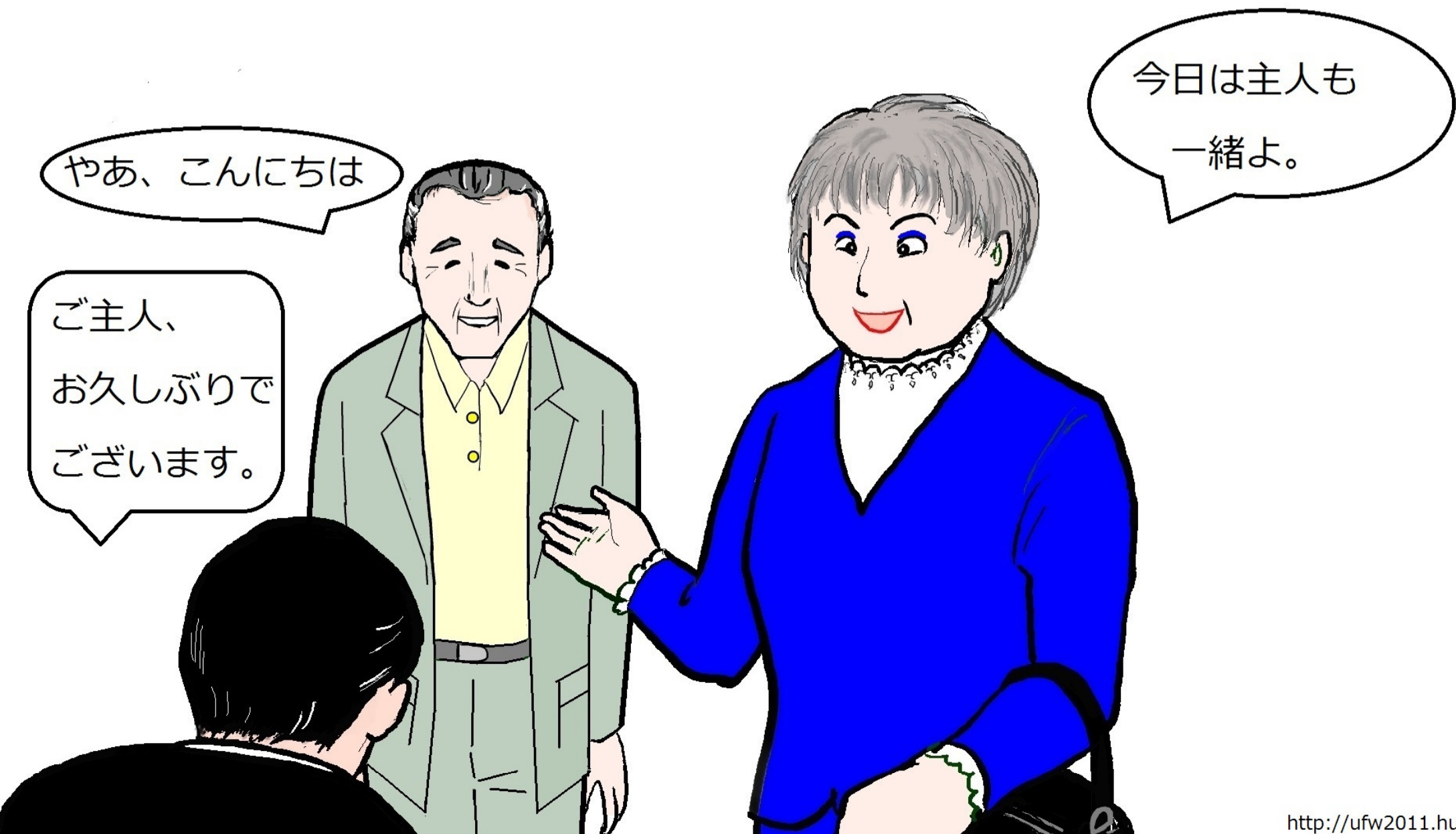
ワンダーランド

こんにちは





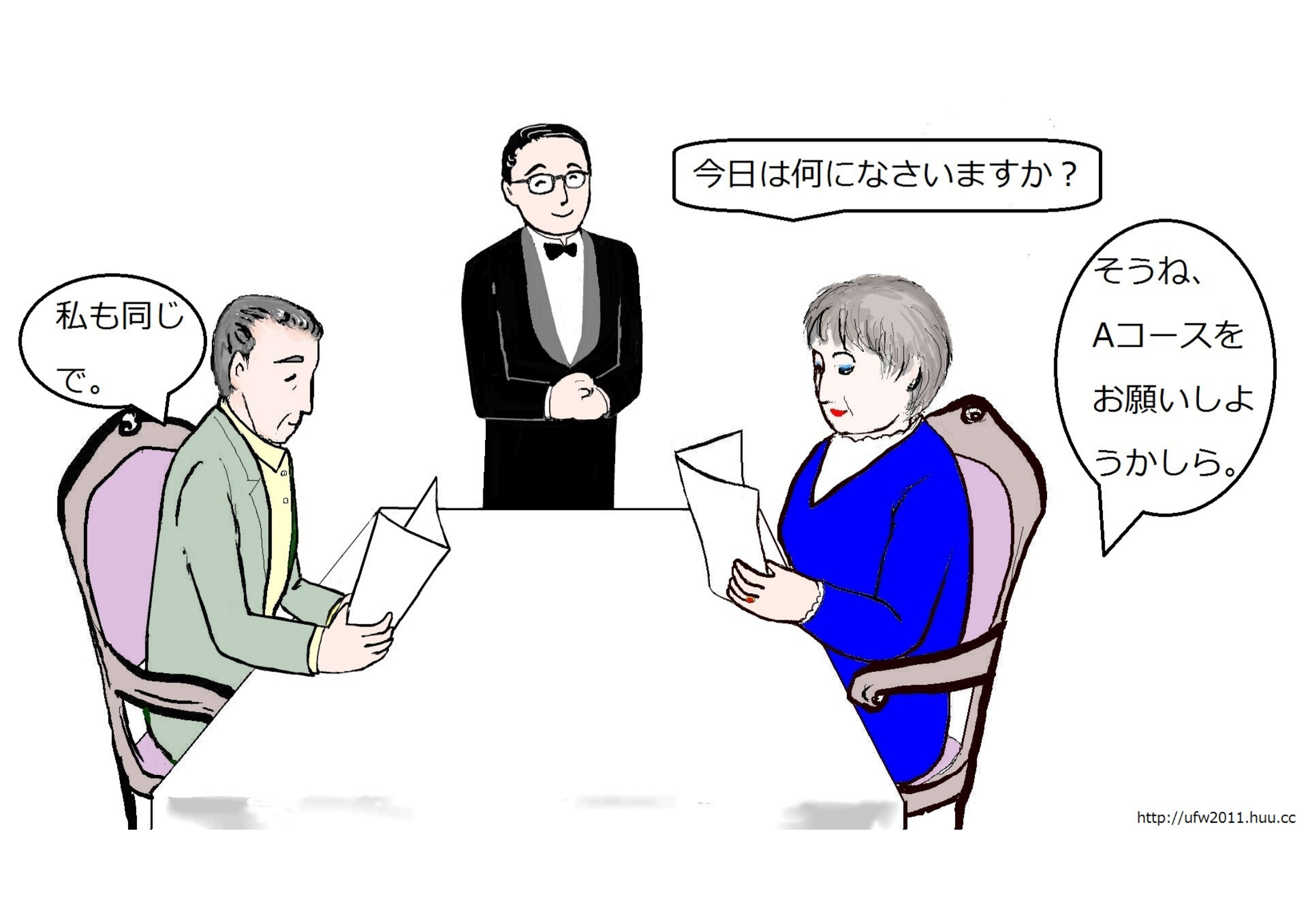
これはこれは、マダム
ようこそいらっしゃい
ました。



今日は主人も
一緒よ。

やあ、こんにちは

ご主人、
お久しぶりで
ございます。



今日は何になさいますか？

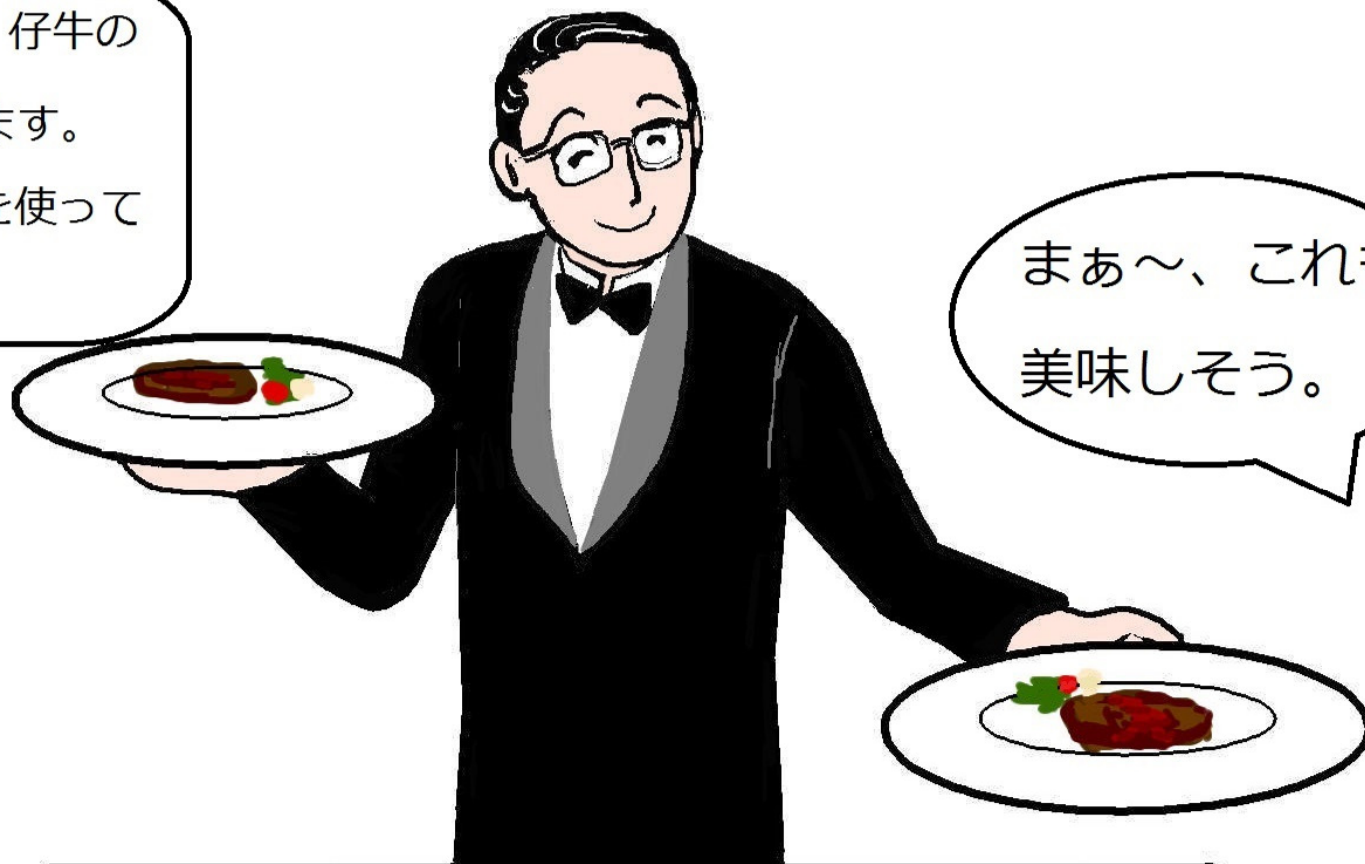
私も同じ
で。

そうね、
Aコースを
お願いしよ
うかしら。




んまあ～、
なんておいしい
フォアグラ！
さすが、こちらの
シェフは一流ね

本日のメインディッシュ、仔牛の
フィレステーキでございます。
生後、6ヶ月の仔牛の肉を使っ
ております。



まあ～、これも
美味しそう。



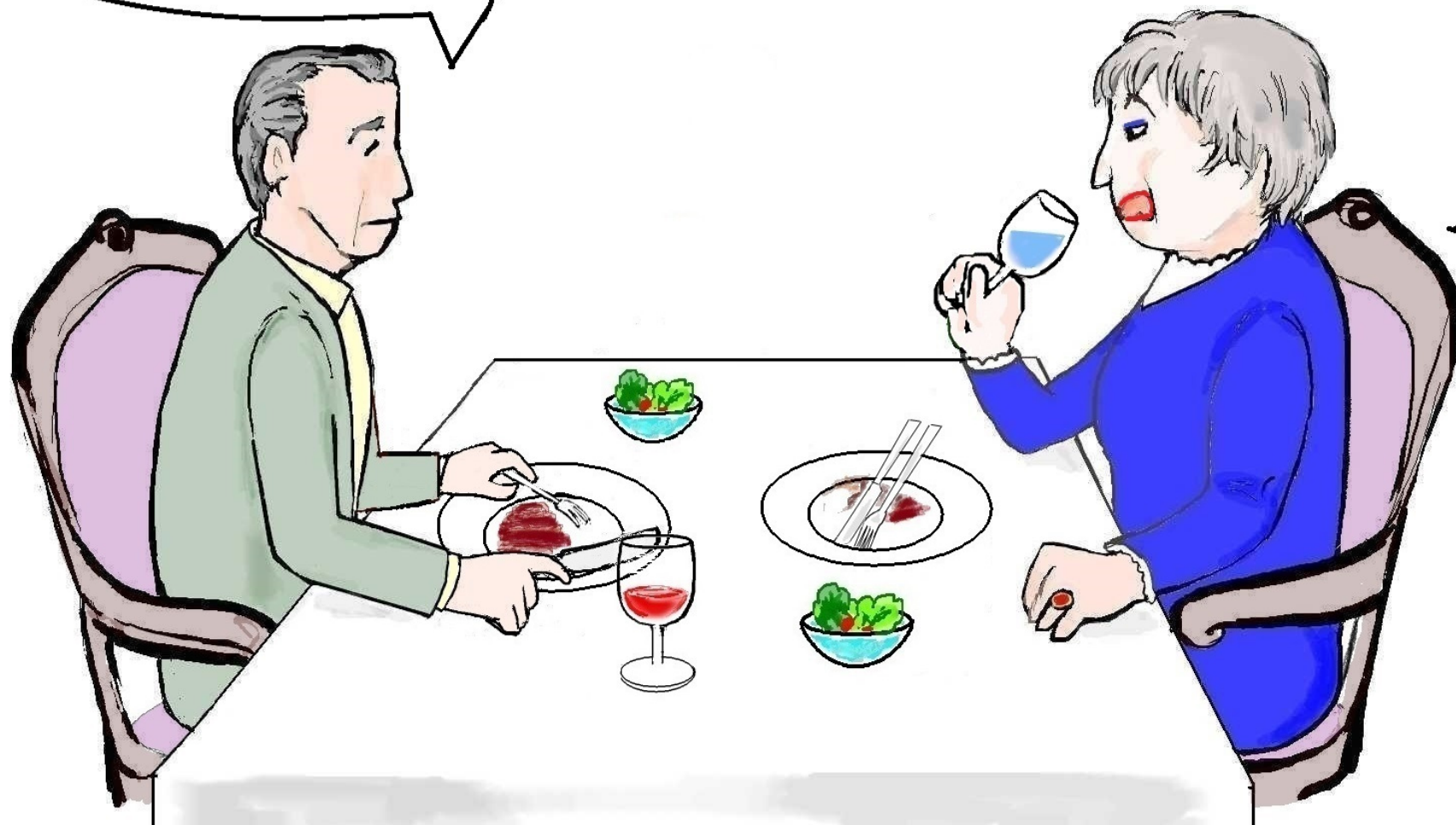
おや、ステーキは
残すのかい？

そう。わたくし、
今、ダイエット
してるの。

この後、エステも予約
してるし。

ダイエットって…

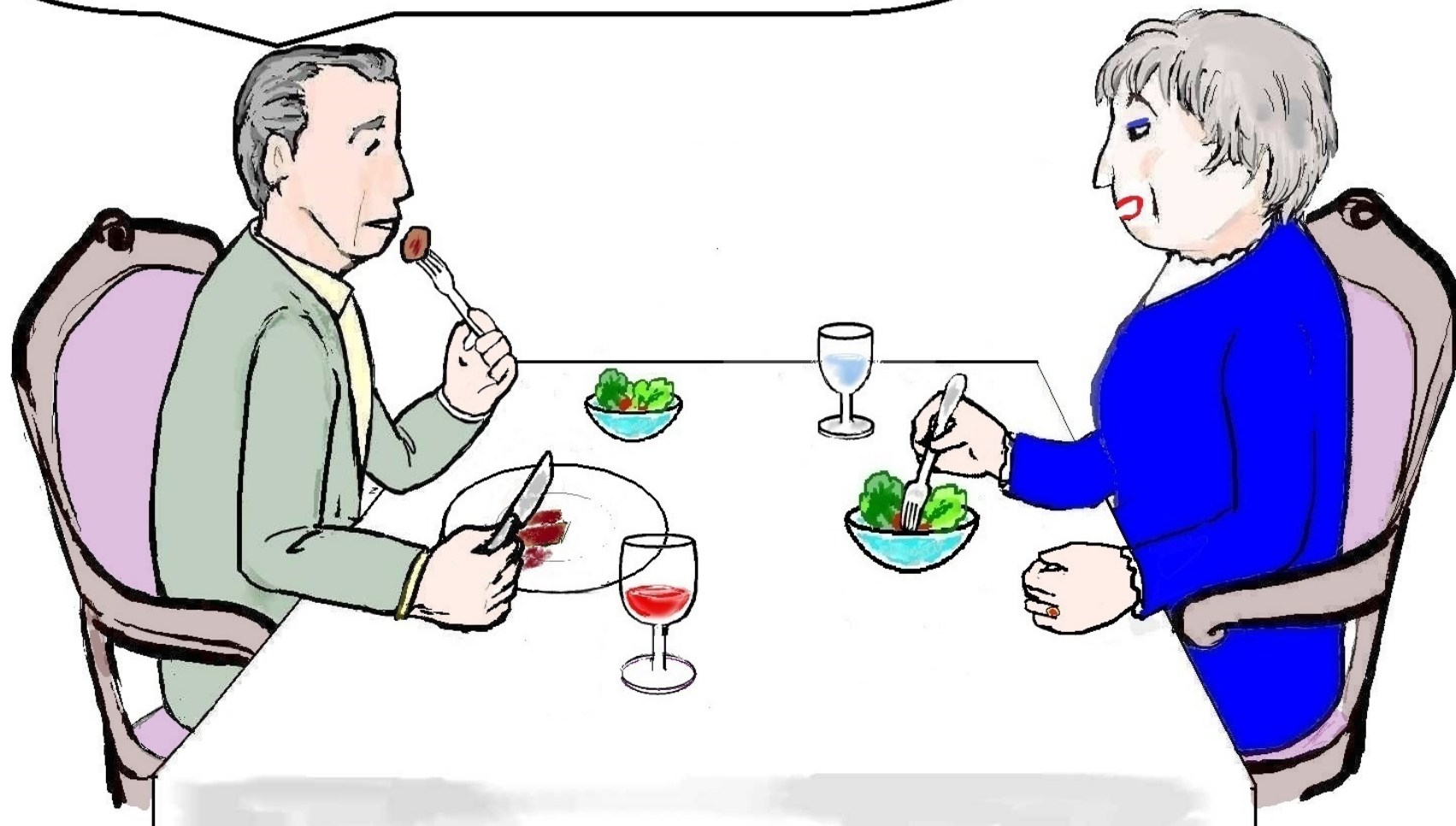
コース料理を頼んでおいてかい？



いいの！
腹八分目とも
言うでしょ！

子供の頃、食べ物を残すと、バチ当たりと言われて
親に怒られたものだったよ。

地獄で鬼に酷い目に遭わされるとか、脅かされてね。



今は科学の
時代なのよ。
そんな話、
子供にだって
通用しない
わよ。

でも、子供の頃にお寺で見た地獄絵は、
本当に怖かったなあ。



わたくし、
ゴキブリの方が
よっぽど怖いわ

実際に鬼に会ったら、キミ
だって腰を抜かすよ。

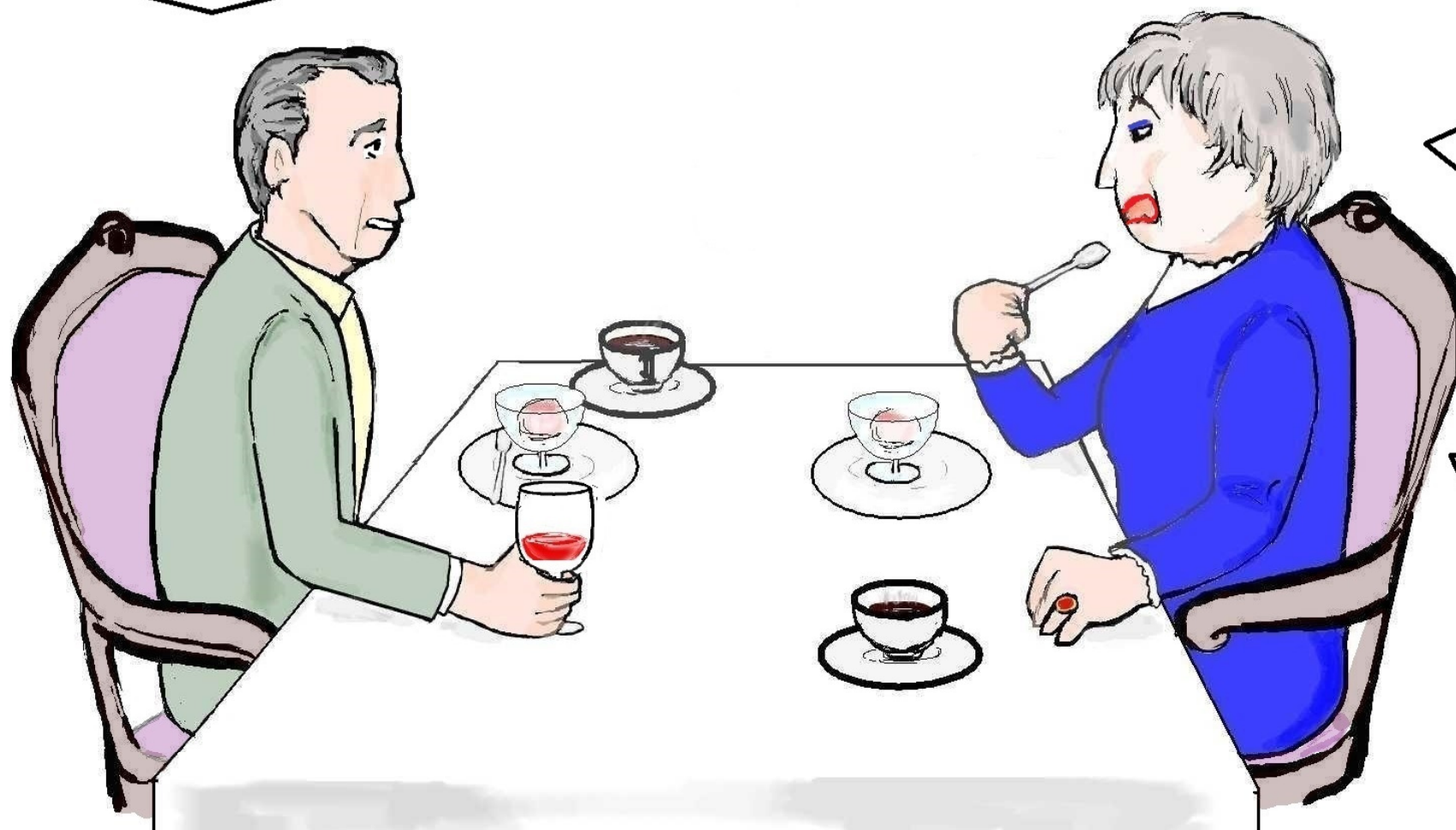


何を寝ぼけた事
言ってるの。

リーマン
ショックの
時の方が、
腰を抜かし
たわ。



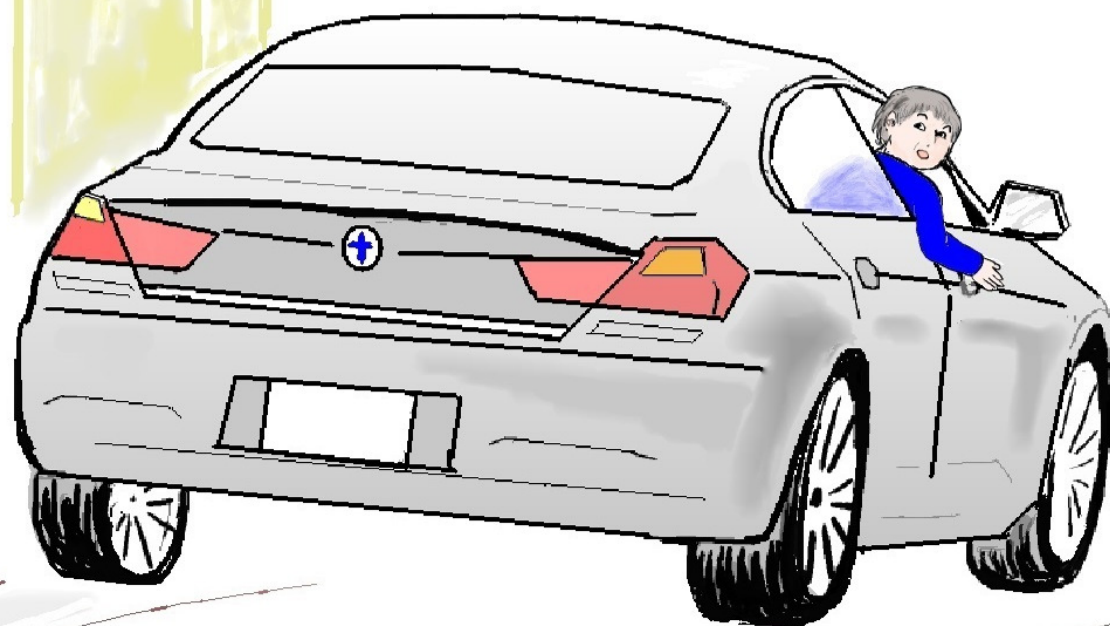
デザートは食べていいのかい？



いいの！
デザートは
別腹なの！

あ～たは
黙って食べ
てて頂戴。

じゃあ、わたくしはエステに行ってくるわ。



あ～たは、タクシーで帰ってね。



ちょっと遅れ
ちゃったかしら。

いらっしゃいませ。
マダム。
お待ちしております。
ました。

今日は、全身アロママッサージと
小顔エステですね。

お着替えが済んだら
呼んで下さいね。





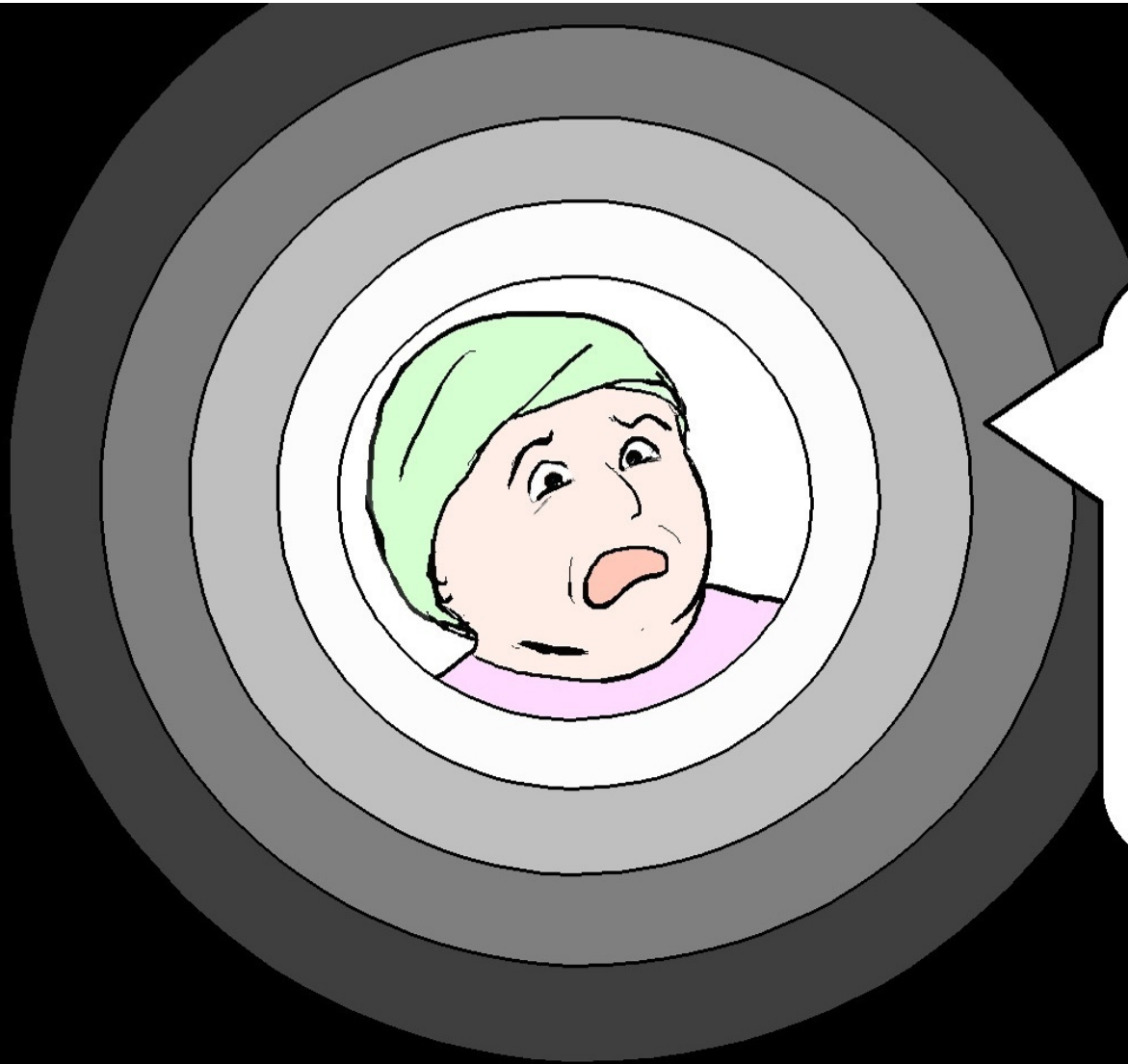
準備できたわ。

あら、
返事がないわね。

どうしたのかしら。



困ったわ。
誰かいないの？
なんだか、部屋が薄暗い
わね。



えっ！ どうしちゃったの！？
真っ暗になっちゃったわ。

なに？

なにが起こったの？



誰かいないの～？

助けて～！

あれ~~~~



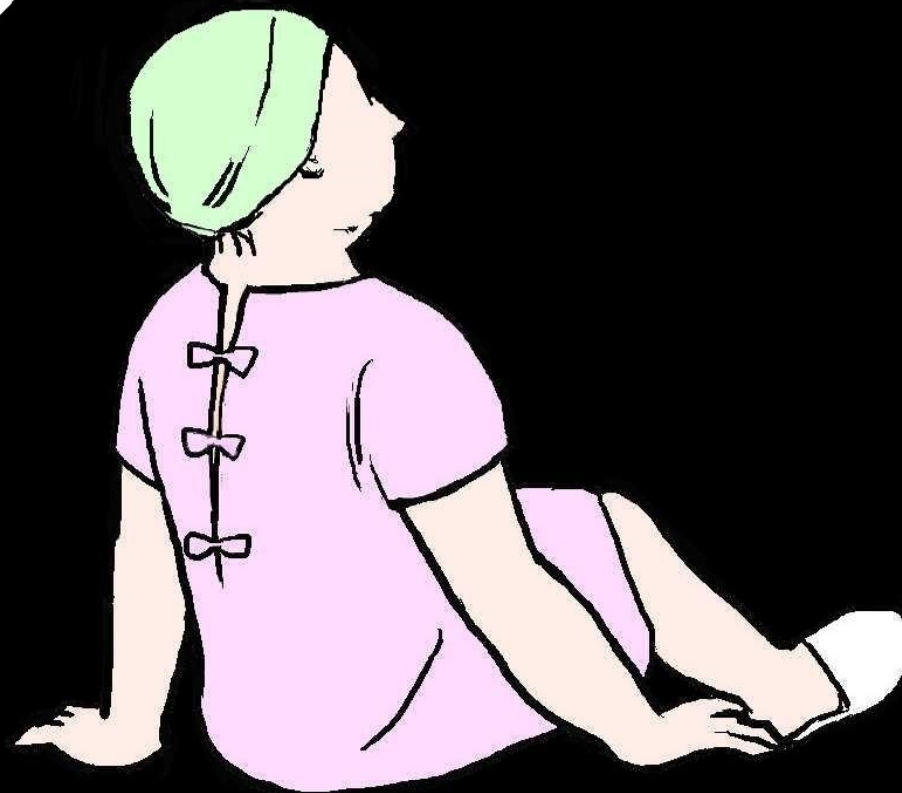
ひ
ち
ぢ



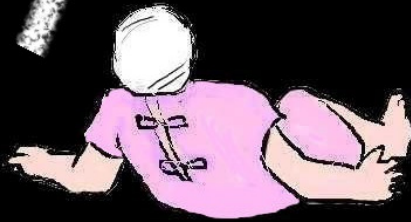
ハアハア、
ゼエゼエ



ここはどこかしら？



ア
キ
カ



ぬ



お、お、鬼…

た、た、た、たす…け…

腰が…抜け…



誰だ、おまえ



はなして、
はなして

新入りか

違う、違う。
わたくしはエステに
来ただけ。



ここは地獄の
入り口だ



地獄ですって！？

あなた達がわたくしをここにさらったの？



いや、
おまえが勝手にここに入って来たのだ。
地獄にふさわしい者が、自らやってくる。

そんな、
何かの間違
いよ。



どうしてそう思うのだ？



だって、
何も悪いことしてない
し、
周りからはいい人だっ
て言われてるし…

いいひと…
悪いことをしてない
……………?

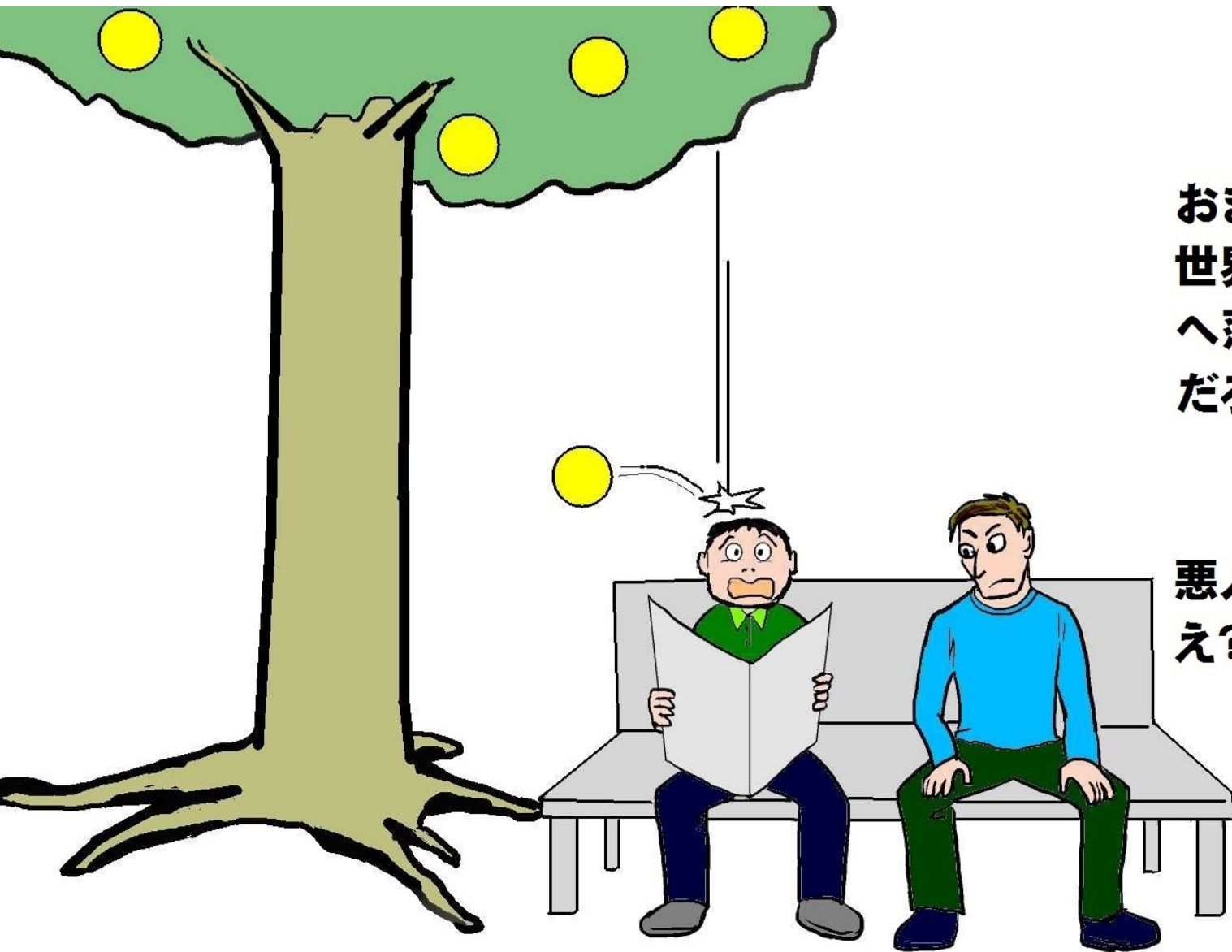
何言ってるんだ?



**上へ行くか下へ行くかは、「法則」による。
人間が決めたルールは関係ない。**




**人間が、自分達の勝手な思いで、天国行き・地獄行きを
期待しているだけだ。**



**おまえが住んでいた地上の
世界だって、物は上から下
へ落ちるといふ法則があつた
だらう？**

**悪人の所にだけ落ちたか？
え？**



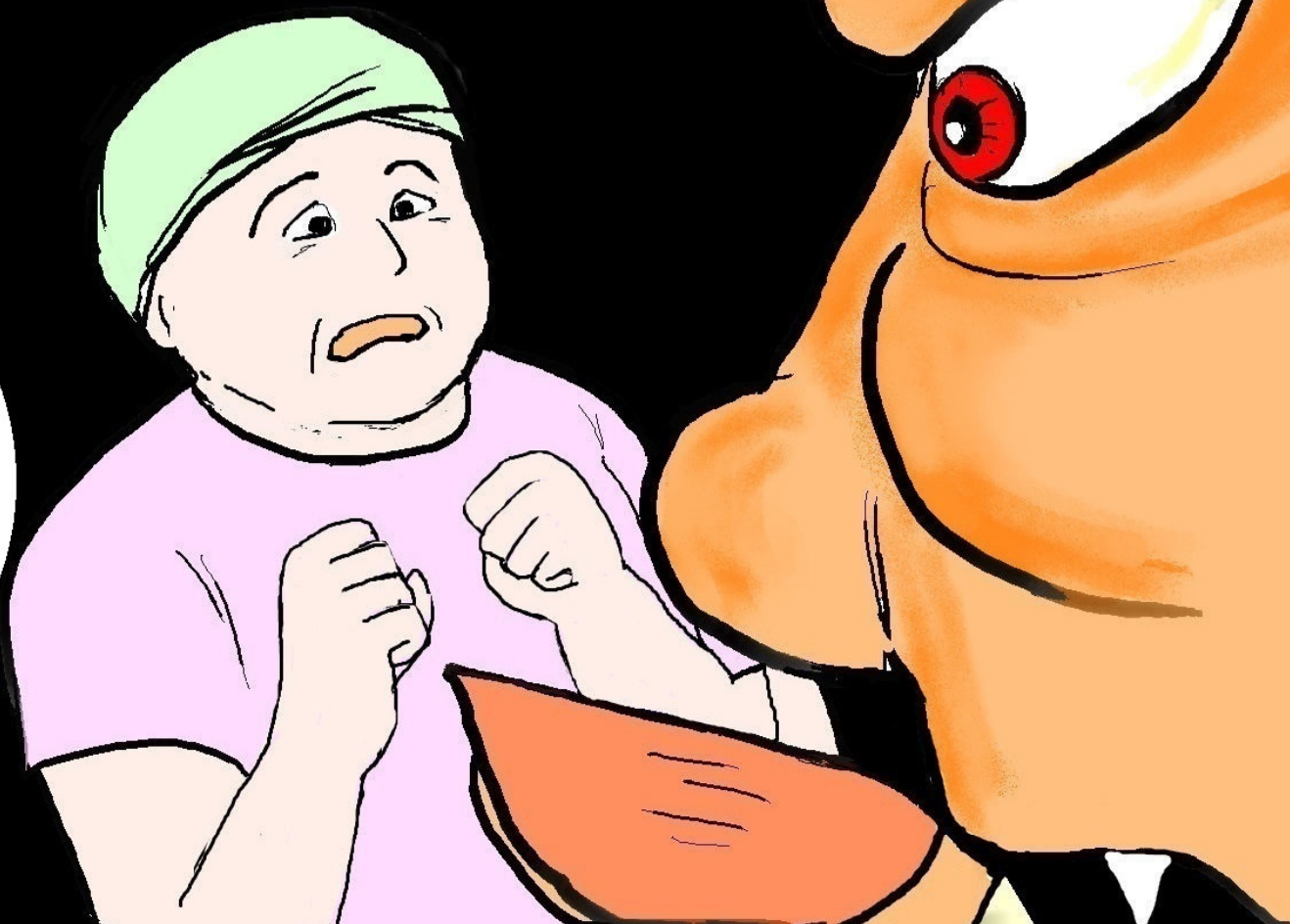
でも、何の罪も犯してないのに、地獄
だなんて。

元の世界に帰し
てちょうだい。

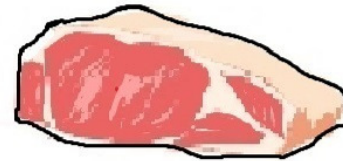
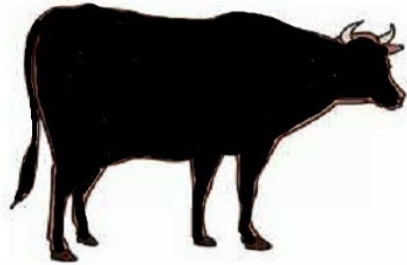
何の罪も犯してないだと？

おまえ、今日、肉を食わなかったか？

調理された
お料理をいただ
いただけよ。
それがどうか
して？



おまえは、動物の身になって考えたことがあるか？



食用の動物は、人間に食べられるために繁殖させられ、餌を与えられ、生かされた上、食べ頃になれば殺されていくのだ。

**動物たちからすれば、人間は単なる殺戮者だ。
人間の一生は罪の連続だ。**

あ、
菜食主義にすればいいのね。

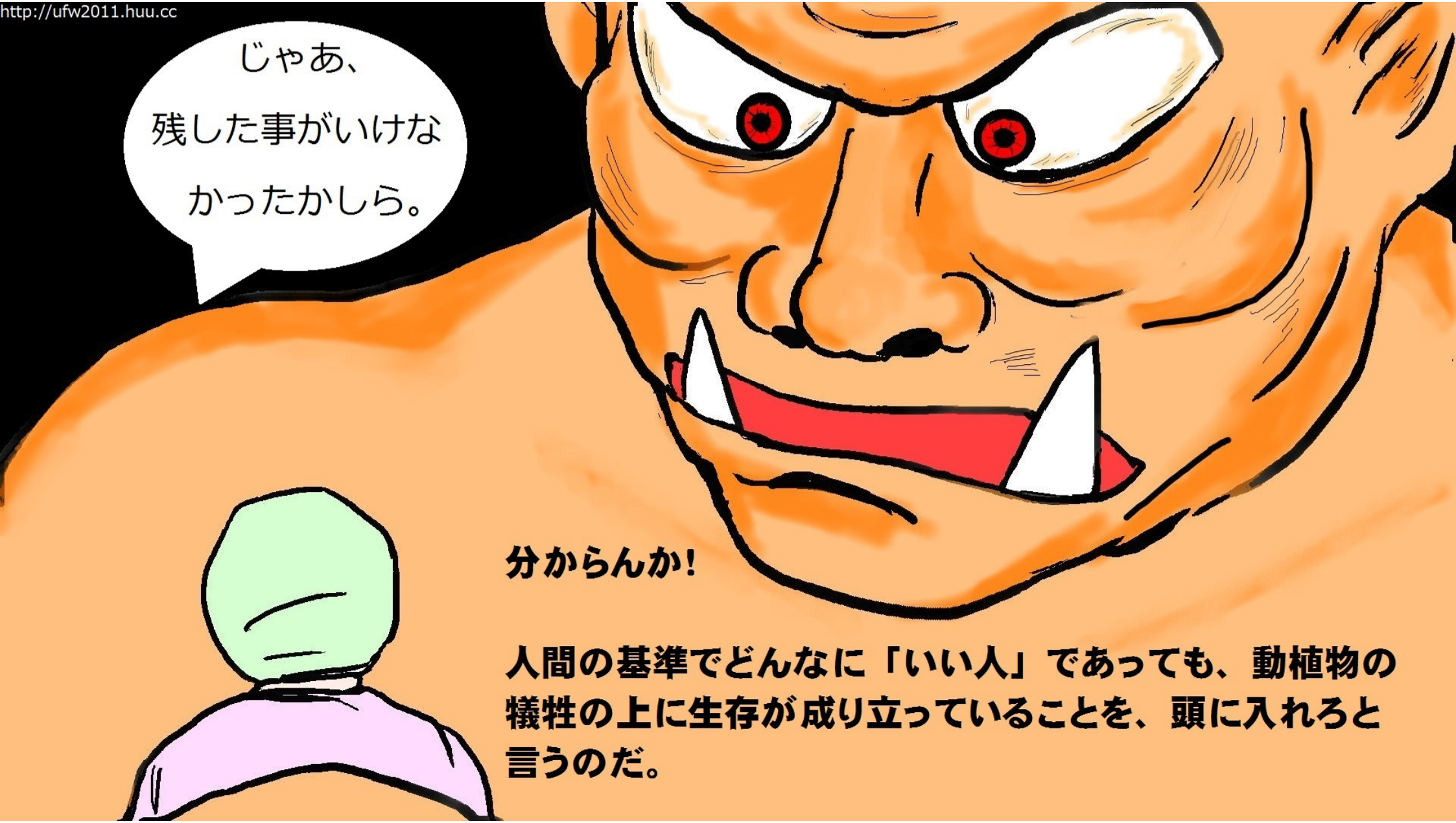
単純なヤツだな。肉食がダメだと言ってるのではないぞ。

「罪がない」などと、簡単に結論づけるなと言うのだ。

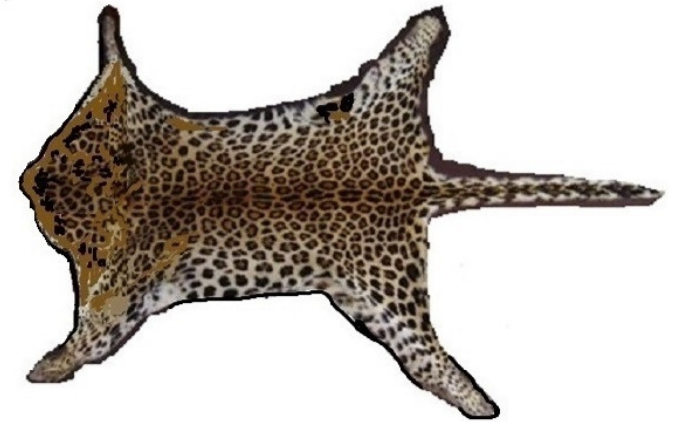
じゃあ、
残した事がいけな
かったかしら。

分からんか!

人間の基準でどんなに「いい人」であっても、動植物の犠牲の上に生存が成り立っていることを、頭に入れろと言うのだ。



それどころか、人間は、食べる目的以外にも動物の生命を奪っている。



おまえは、鼻を切り取られ、牙を取られた象や、生きたまま角を切り取られたサイの姿を正視できるか？

密猟者に母親を殺されたヒョウの子供がどうなるか、想像したことがあるか？

どの位の犬や猫が、毎日殺処分されているか知っているか？

苦しみながら殺されていく動物たちは後を絶たない。



人間は、動物にとっては害悪であり、環境を破壊する地球のガン細胞のようなものだ。

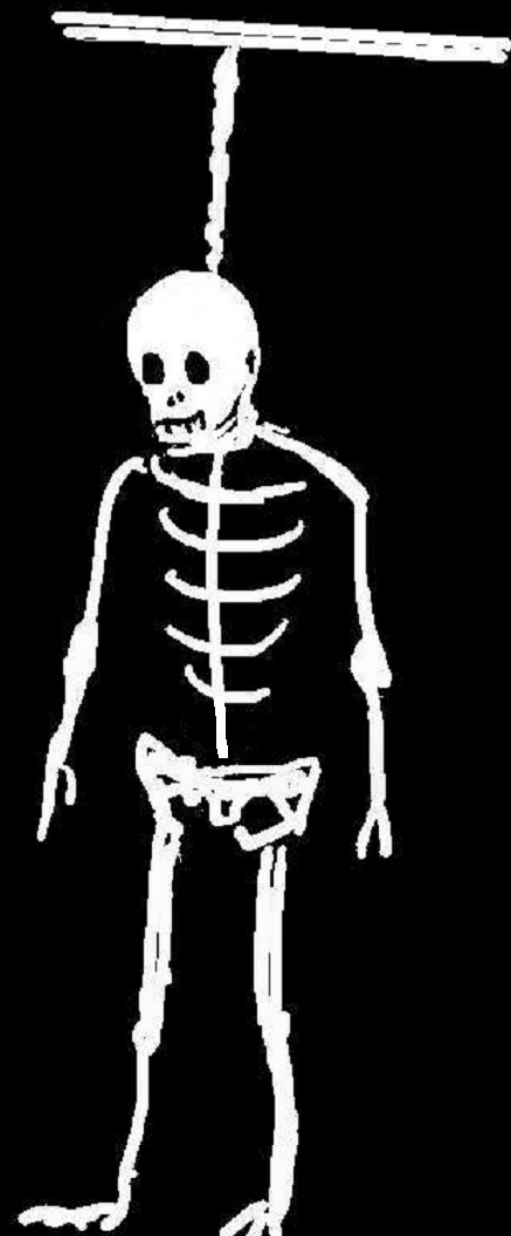
人間同士だって同じだ。



**人間の歴史は、殺戮の歴史だ。
現在でも状況は変わっていない。
人間の残酷さは、鬼の俺でも目を覆うばかりだ。**

人間同士が殺し合う場合、単純に息の根を止めるとは限らん。

憎しみから、あるいは残虐心を満足させるため、鼻や耳をそぎ、目玉をくり抜き、皮膚を剥いだりと、それはそれは残虐な行為に及ぶことがある。



**戦争や紛争ともなれば、どさくさで女性が犠牲になり、
性のはけ口とされる。**

**中には、逃げないように足を切断された上で、死ぬまで
暴行される者もいる。**



差別制度が当然と思われている国では、それに反対する人を焼き殺したり、四肢を切断したり、凄惨なリンチや拷問を加えて死に至らしめることもある。




**これらは、ほん
の一例だ。**

**これが人間とい
う存在の実態な
のだ。**

**人間の残虐性、冷酷
性は、特定の個人、
民族だけにあるので
はない。**

**人間に共通するもの
だ。**



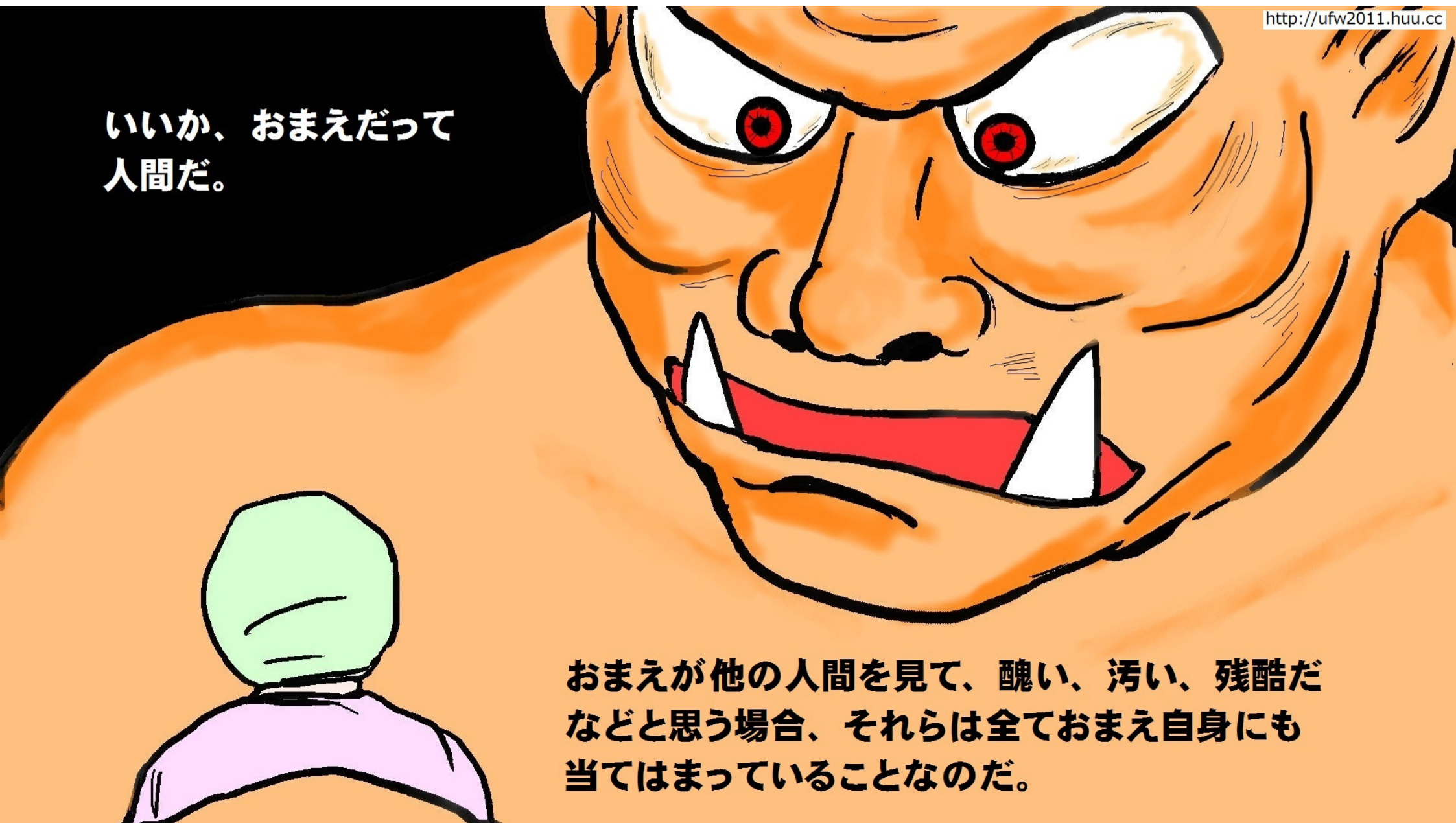


でも、わたくしは密猟者や犯罪者とは違うし、
過去の歴史を言われても困るわ。

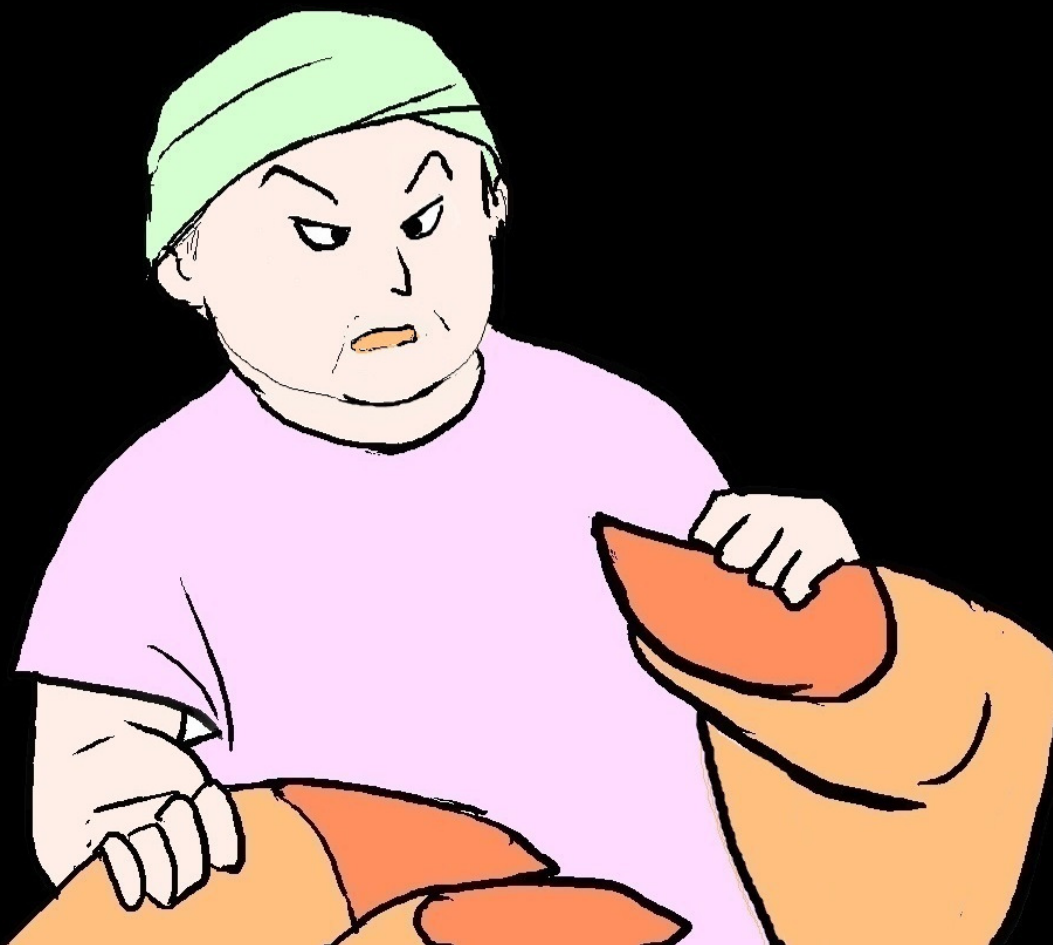
わたくしには
関係ないわ。

いいか、おまえだって
人間だ。

おまえが他の人間を見て、醜い、汚い、残酷だ
などと思う場合、それらは全ておまえ自身にも
当てはまっていることなのだ。



わたくしは、自分の品性にかけて、「違う」と
断言しますわ。



本当にそう思うか？

おまえは、自分がゴキブリを殺す時の執念を、思い起こしてみるが良い。

躊躇なく、徹底的に息の根を止めてるだろう？



憎い相手が不幸にでもなれば、ザマーミロと思わないか？



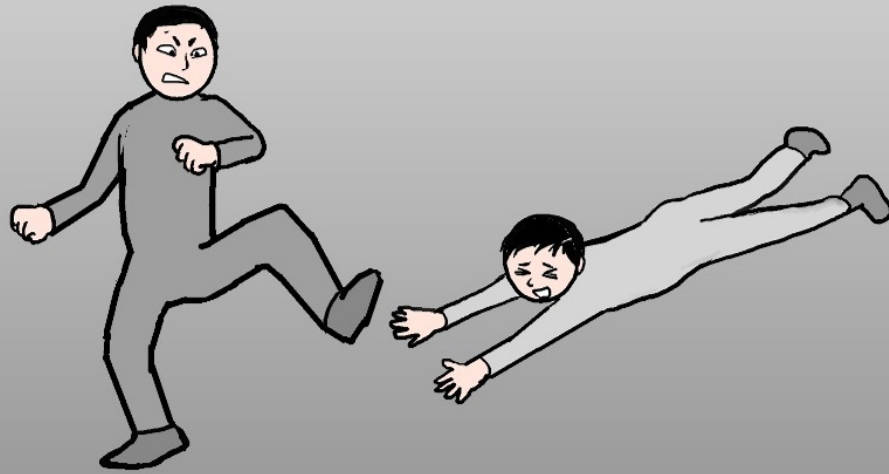


ゴキブリを殺すことは、
衛生状態を保つために仕方
ないことよ。

悪い人が罰を受けるのを
見てスッキリするのは、
正義感があるからだわ。

わたくしは、
無意味に相手を傷つけ
るなんて事しないわ。

**人間は、生きるために競争を強いられ、他人を蹴落として生きている存在だ。
受験戦争に勝ち、出世街道を上りつめる時、必ずその陰では泣いている敗者がいる
はずだ。**



**どんなキレイごとを言ったって、
これが現実だ。**

そういう人間社会で生きていながら、おまえは何の疑問も持たずに、自分を「いい人」だの、「罪はない」などと言うのか？

人間の本性を見つめない限り、おまえには自分が見えず、進歩することもない。





でも、わたくしは神様
を信じていますわ。

そのわたくしが、地獄だ
なんて…

なに〜っ! 神様を信じてるだとーーーっ!



笑わせるなーーーーー!



**おまえは、いつ神を
信じ、その信仰を証
したというのだ!?
え?**



**おまえは単に、正月
に自分の幸福を願っ
たり、自分が困った
時に神頼みするだけ
だろう?**



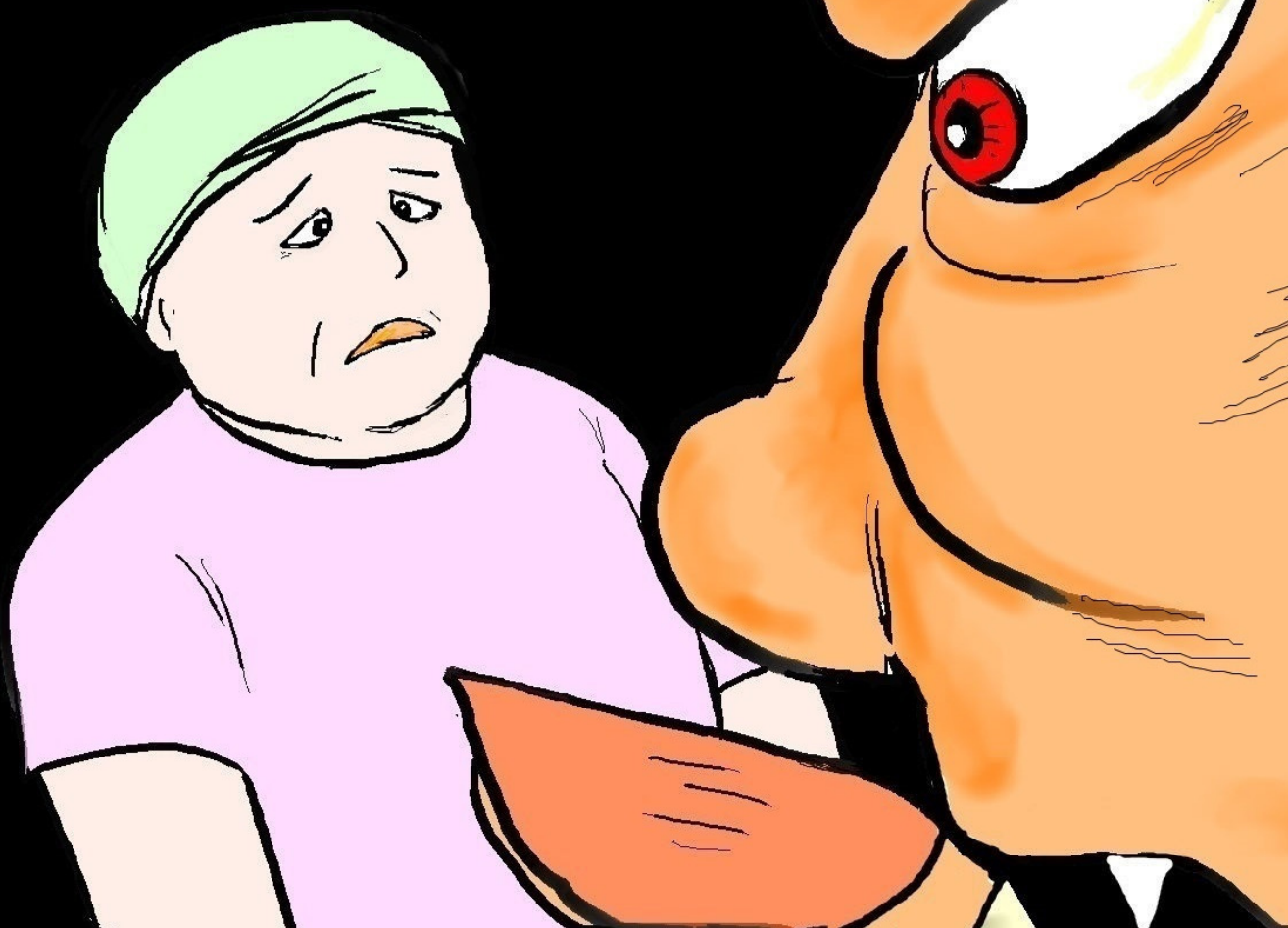
おまえは、神を、自分の身勝手な願いを叶えてくれる都合の良い存在に作り上げ、神に「救え」だの「与えろ」だの言ってきた。

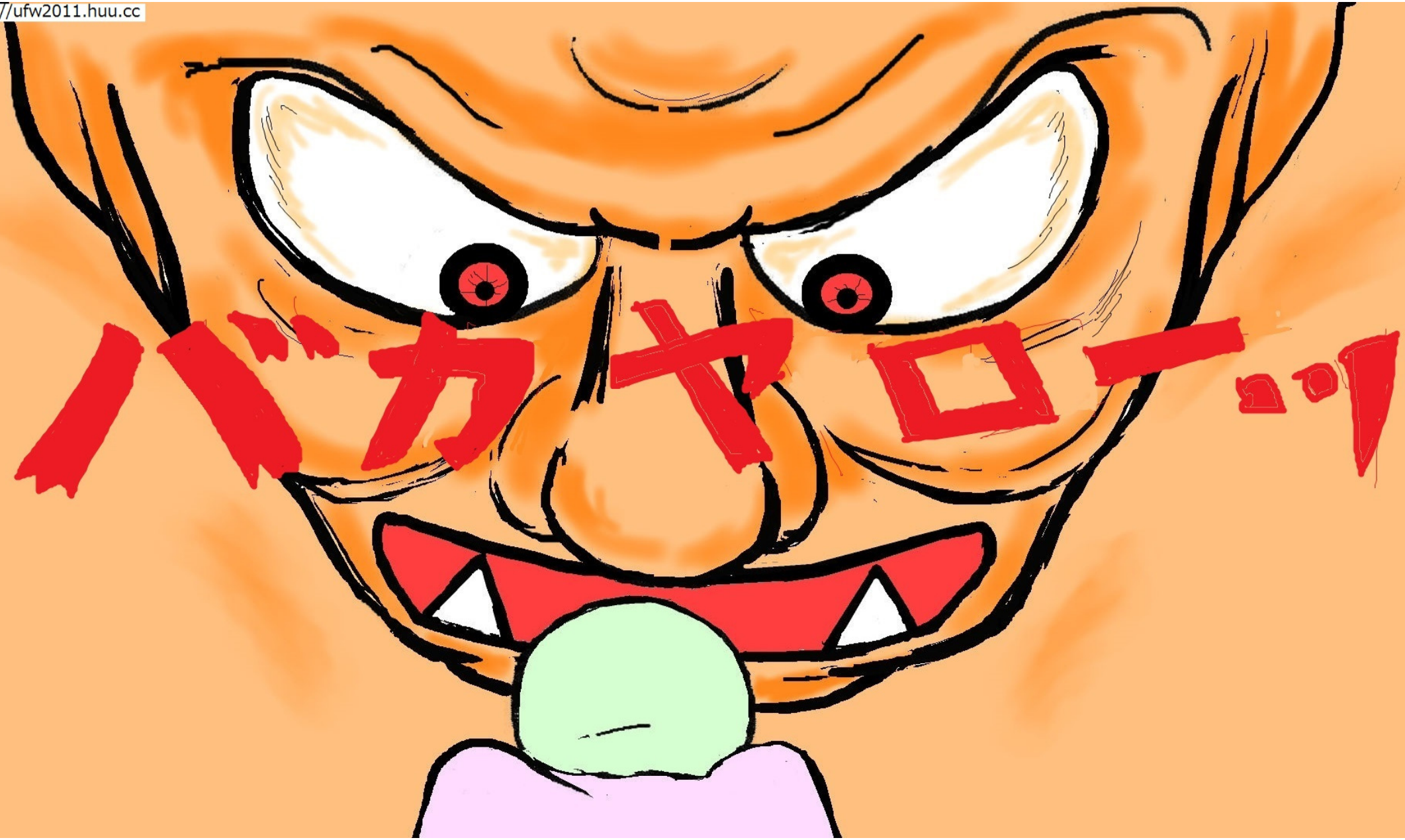


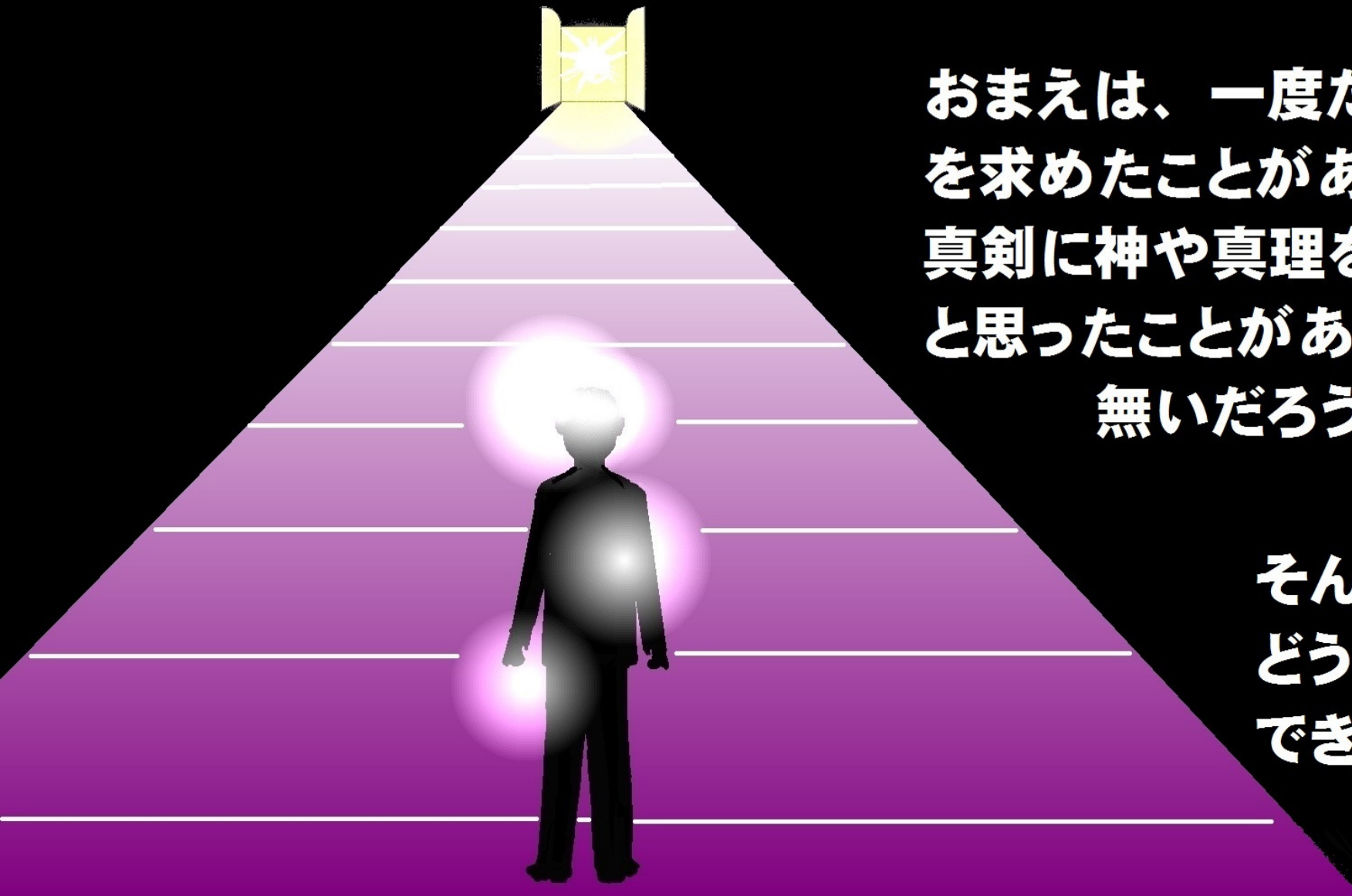
まさか、おまえはそれで天国に行けるなどと思ってはいなかったらろうな？

でも、地獄は
ひどいわ。

やっぱり神様
なんていない
のよ。
わたくしを
救ってくれない
んですもの。







**おまえは、一度たりとも神
を求めたことがあるか？
真剣に神や真理を知りたい
と思ったことがあるか？
無いだろう？**

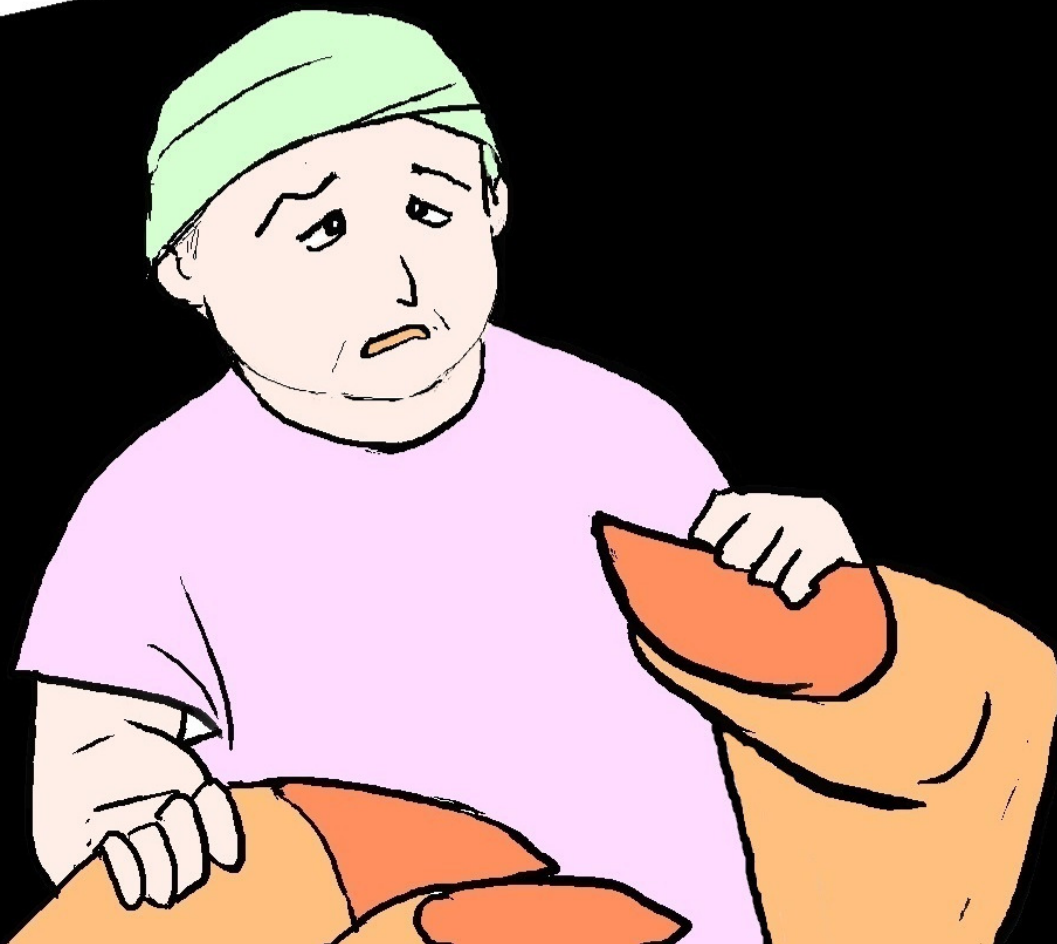
**そんなおまえが、
どうして神を批判
できるのだ!？**

求めれば与えられる。

**おまえが気づき、真剣に神を求めさえすれば、
必ず道が開けるのだ。
おまえの守護霊、指導霊が必ず正しい方向に導い
てくれるからだ。**

**おまえが正しい道に出会っていないのは、求め
てこなかったおまえ自身の責任だ！**

でも、求めるって何？ よく分からないわ。
それより、どうしたら地獄に行かずに済むの？



**聞きたいか。
ならば、教えて
やろう。**

人間には、肉体の他、これと重なった幽質の体がある。

この幽体は、人間社会の中で、いろいろな念の攻撃を受けて傷だらけになっている場合がある。

そうすると、そこから出るはずのオーラも出なくなり、他界後には光とは逆の世界に向かっていく。

これが法則だ。

**また、幽体に不調があると、肉体と幽体とを接着させている半物質のエク
トプラズムがズレて、肉体の外に漏れてしまうことがある。**



そうすると、地上をうろつく邪霊の目にとまり、とたんに餌食にされてしまう。



**地上の人間は知らない
だろうが、地上には邪
霊がうろついている。**

**邪霊たちの唯一の楽し
みは、人間をからかっ
たり、虐めたりするこ
とだ。**

**そんな邪霊に目をつけ
られたら、押して知る
べしだ。**

**人間は何度も生まれ
変わっていることも
知っておけ。**



地上で受けた苦しみや悲しみ、恐怖などは、カルマとなって幽体にも染み込んでいき、この世に再生する度に積み重なっていく。

そして、このような過去世からの強烈な思いが衝動となって、現在の心情に浮かび上がり、自ら災いを呼び起こすことがある。



その結果、他人の憎しみの念なども受けやすくなり、さらには邪霊の干渉も受けやすくなっていくのだ。

現在では、人々の信仰心は失われ、殺伐とした念も飛び交っていることから、邪霊の勢力はますます強くなっている。

それ故、空気と重なっている幽気は、ますます汚れていく一方だ。



じゃあ、昔の人はどう
だったの？


人間の歴史が殺戮の歴史
というなら、昔だって同
じじゃないの？

昔は、人々に素朴な信仰心があった。

そして、高い気が降りる場所が随所
あり、そこで幽体の不健全さを治癒
することが出来た。



しかし、現代では、そのような場所もほとんど無くなっており、
実に多くの者が、幽体に損傷を受けたまま他界している。



それじゃあ、
神に祈っても
ダメなの？

神は何もして
くれないの？

**祈っても無駄だ。
人間から出る念の質は低い。
その低い念が、靈的に高級な
存在に届くはずがない。**

ましてや、神に届くはずがない。

**人間が呼ぶところの「愛」と
いう感情で、傷が治癒される
ものでもない。**

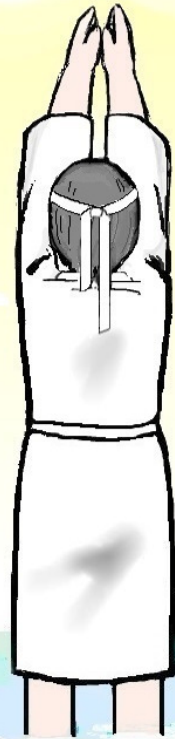
そうすると、
絶望的じゃないの。

いや、1つだけ方法がある。

禊

だ

日本に古来から伝わる秘技だ。



**地上の人間の悲痛な叫びを聞いて、
偉大な魂が降りてきた。**

そして、この世に新たな禊が授けられた。

**この禊こそが、
幽体の汚れを落とし、
カルマを解消し、魂を磨く、
唯一の道なのだ。**

どのような生き方をするかは、
おまえ次第だ。

禊によって幽体を鍛えるのも自由、
しないのも自由だ。

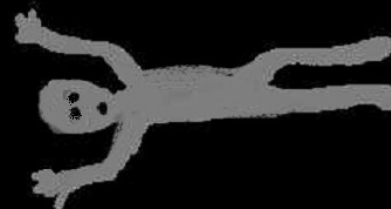


その代わりに、他界後にどのような世界が待っているかについても、おまえ次第だ。

本来、あの世には地獄なんぞ無かった。

しかし、地上の人間が他界した後、その幽体が行くにふさわしい世界として、地獄が生まれてしまったのだ。

まさに、人間の自由意思の結果だ。



いいか、分かったか。

くれぐれも言うておくが、
何の努力もせずに、易々と
天国に行けるなんて、夢に
も思うなよ。

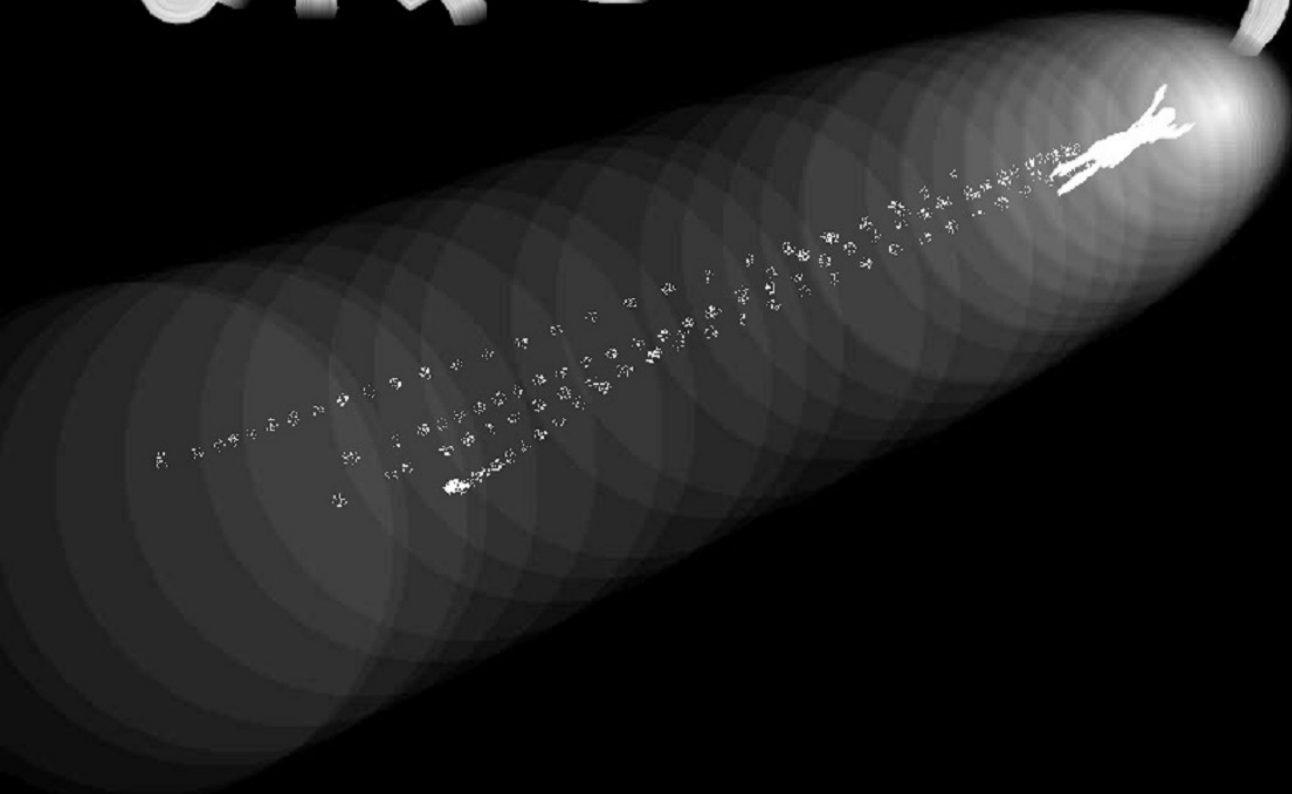
高い世界にいけるのは、
自分の醜さに向き合い、
修行によって魂を向上させ
た者だけだ。





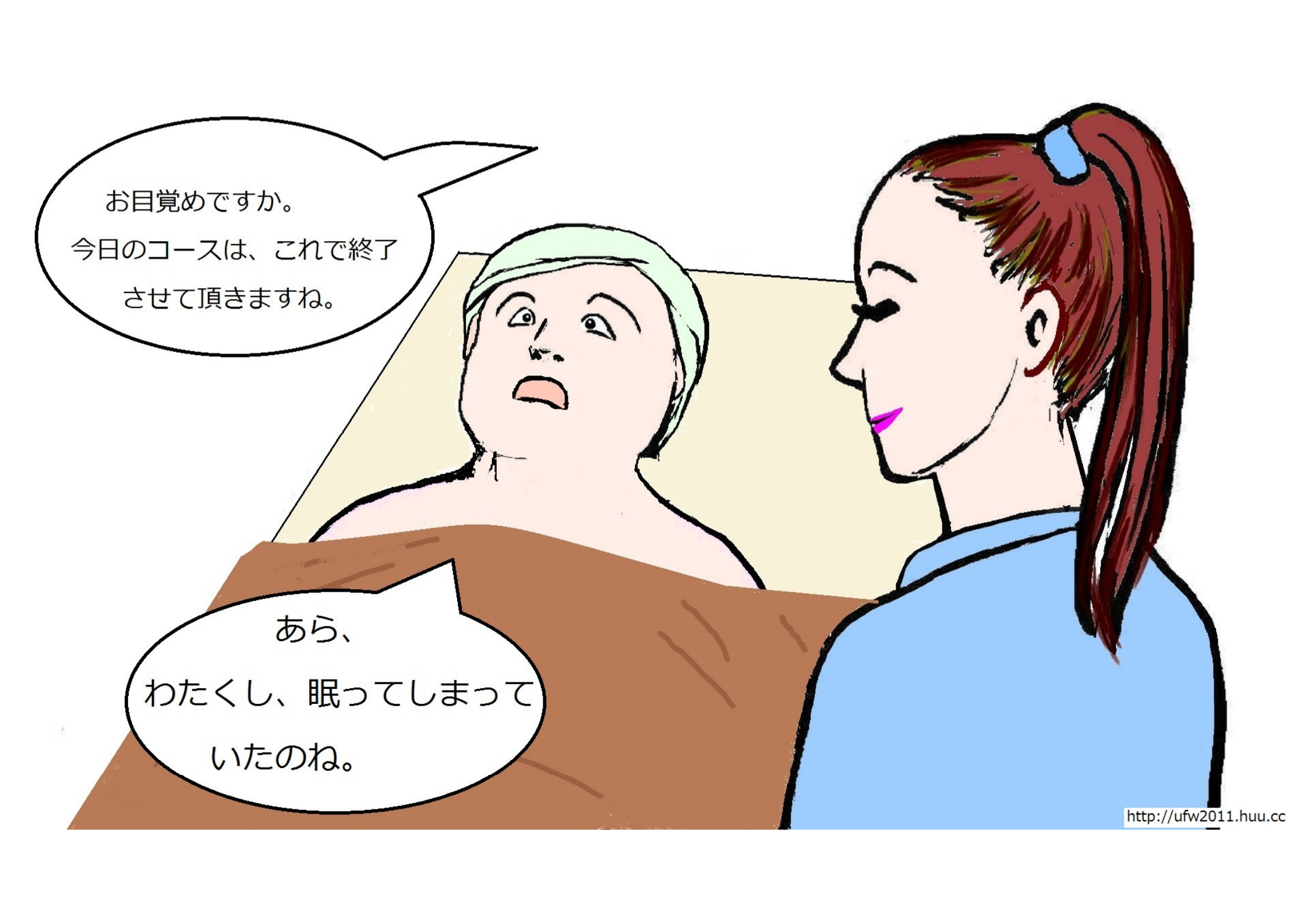
分かったら、さっさと帰れ—————!
おまえは、まだ死んでいない。

あーん



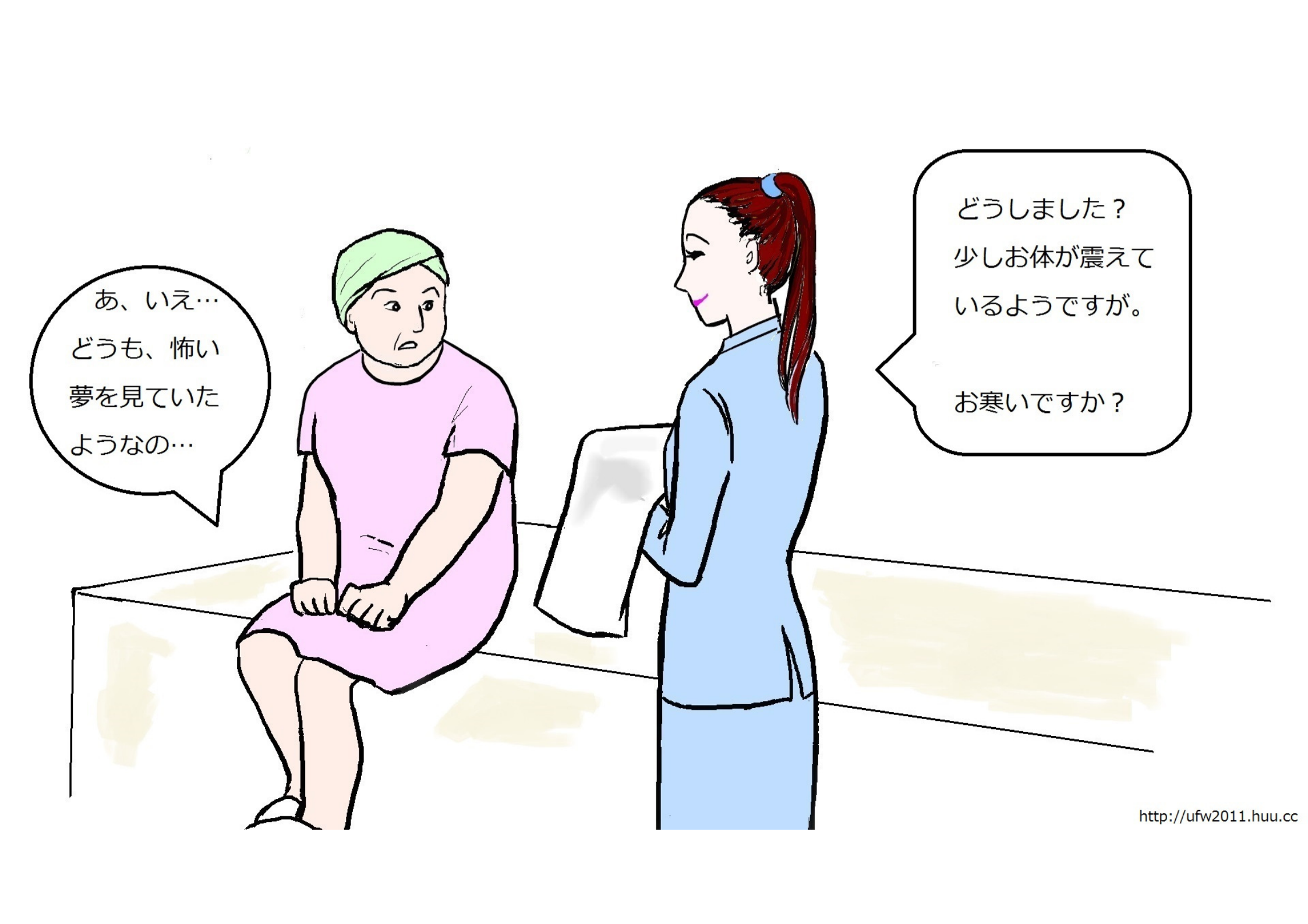


マダム、
マダム...



お目覚めですか。
今日のコースは、これで終了
させていただきますね。

あら、
わたくし、眠ってしまっ
ていたのね。

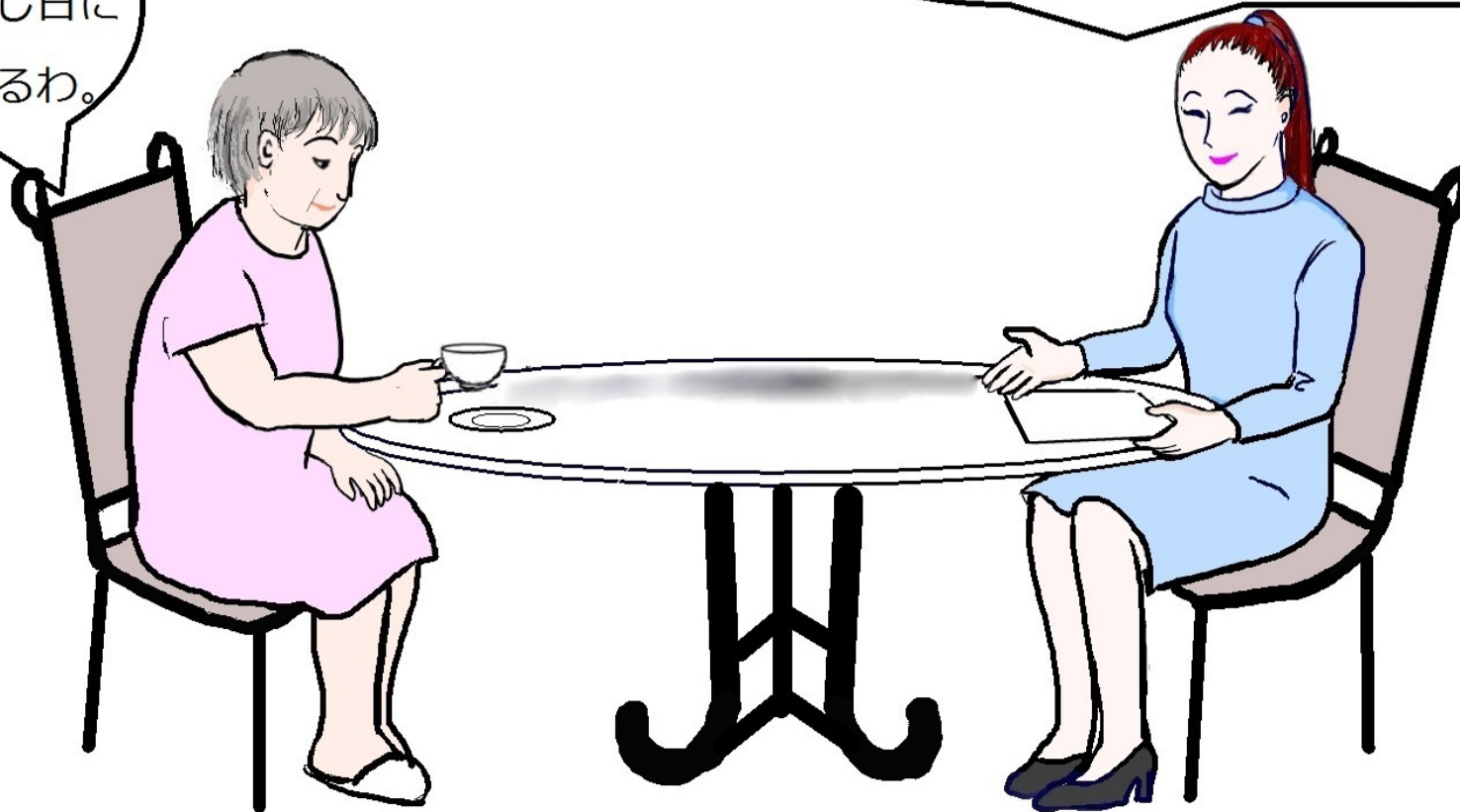


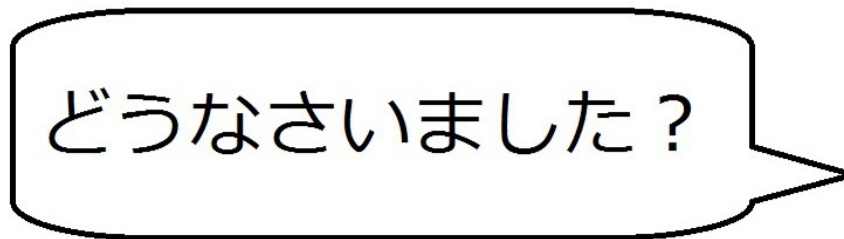
あ、いえ…
どうも、怖い
夢を見ていた
ようなの…

どうしました？
少しお体が震えて
いるようですが。
お寒いですか？

そうね、また
来月の同じ日に
お願いしますわ。

どうぞ、暖かいハーブティを入れましたので、
召し上がって下さい。
次のご予約はどうかございますか？







ちょっと変なこと
聞いていいかしら？

あなた、地獄とかあの世って
信じる？

は？





まあ、マダム、どうしちゃったんですか？
何か悪い事でもあったんですか？

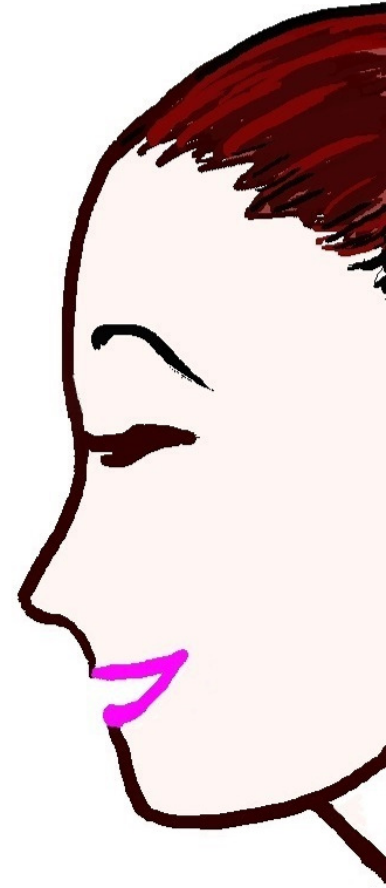
いえ、そうじゃないけど、変な夢を見たのよ。
それが妙に印象に残ってしまって…。
そうよね、地獄なんて信じないわよね。





そうですねえ。仮に地獄があったとしても、「地獄の沙汰も金次第」なんて言いますからね。
何とかなるんじゃないかしら。

でも、鬼って、手強そうよ。
それに、「法則」とやらがあるかもしれないし。



え？

ううん、何でも
ないわ。
科学の時代に、
あの世だの地獄だ
のって、おかしい
わよね。

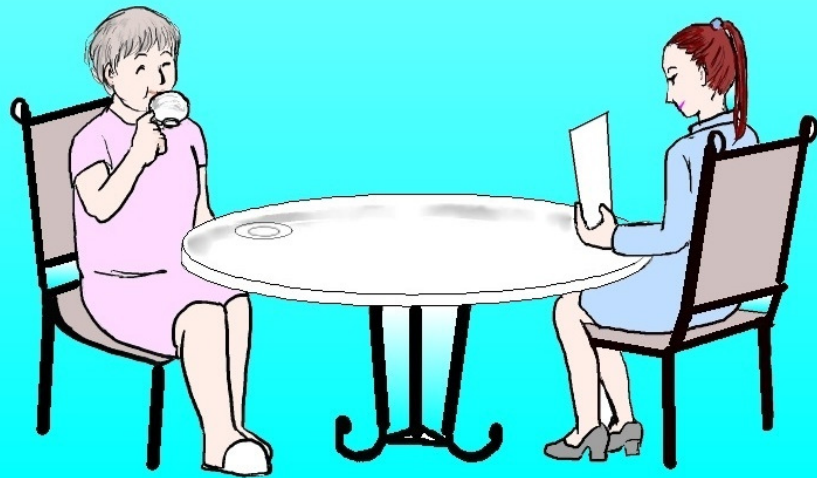
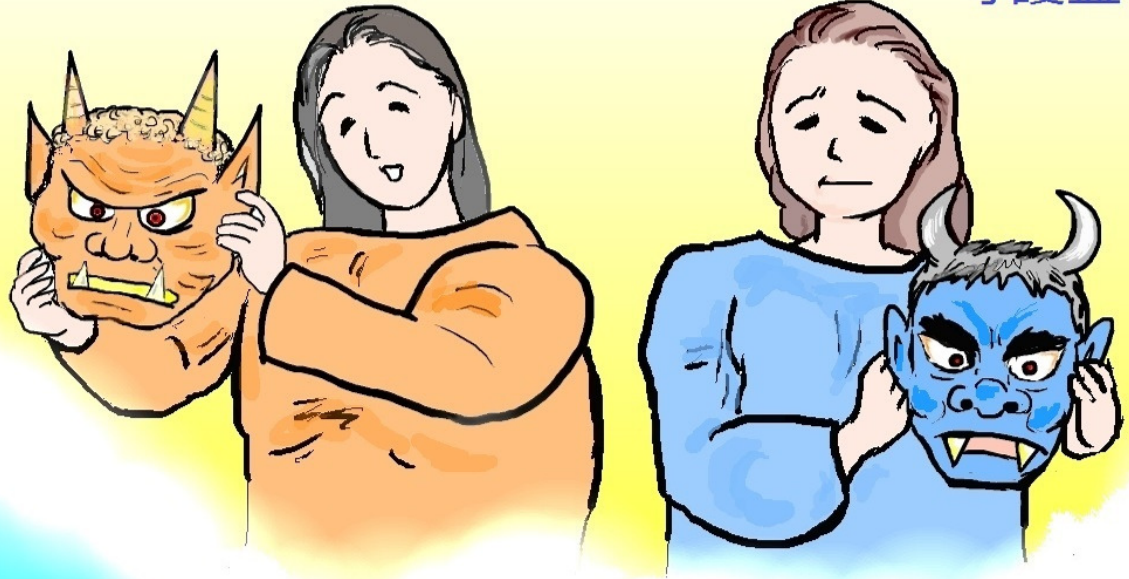




指導霊

守護霊

少しは考える気になっただけかしら。



そうだといいんですけどね。
あの子は頑固だから、まだまだかもしれませんね。

おしまい

この物語は、霊魂学を基礎に、契山館の会員が個人の責任において創作したものです。

連絡先 a_kouhou@aa.tear.jp

0279-55-0440(夜 6～9時 受付)

靈魂学と、靈的トレーニングにご興味のある方は、
下記もご覧下さい。

<http://www.uranus.dti.ne.jp/kzk/>